

2・11 中原同志虐殺報復 40 年 革マルに渾身の革命的テロルを！

〈戦争・ファシズム〉突撃の先兵 ＝反革命革マルを打倒しよう

革命的労働者協会

東京都杉並区下高井戸1-34-9
03-3329-0164

■革マルによる 77 年 2・11 中原同志虐殺に報復する

革マルは、1977 年 2 月 11 日、わが革労協の中原一同志を襲撃し、頭部を集中的に乱打し虐殺した。当時、75 年ベトナム革命の勝利をはじめとして全世界労働者階級の闘いが革命的に高揚し、朝鮮反革命戦争とファシズムの危機が切迫していた。その中で、わが革労協—解放派は、日帝足下におけるソビエト運動—権力闘争の飛躍をかちとり、プロレタリア武装蜂起の勝利に向けて進撃しようとしていた。革マルは、それを牽引していた中原同志を虐殺し、革命党を破壊しようとしたのだ。絶対に許さない。報復を貫徹する。

われわれは直ちに報復戦に決起し、77 年 4・15 革マル実質書記長藤原隆義をはじめ一挙 4 名打倒戦闘をかちとり、報復—解体・絶滅戦の怒涛の進撃をかちとった。こうした闘いが、革マルに破産と解体的危機を強制してきた。

革マルは、戦前・戦中の天皇制ファシズムを翼賛するイデオロギーであった西田幾多郎の仏教哲学を確信としている。そして反共を内容とする「反スタ（反スターリン主義）」を掲げて、出発から左翼を偽装しながら階級的戦闘的闘いとその革命的発展に死ぬほど恐怖し憎悪する反革命である。「のりこえの論理」と称して既成の運動に寄生し、それを超える階級的戦闘的闘いを解体し、スパイ戦術とテロルによって「権

力と闘う他党派を解体」し、革マル組織を拡大することを「革命運動」だとする極悪の反革命である。

69 年—70 年全国学園闘争・安保決戦の爆発に対して反革命的に武装敵対し、闘う労働者・学生の敵として析出された。そして、72 年早大において革マルは反革命支配の破綻の中で早大生・川口君虐殺をおこなった。それに対して 73 年早大解放闘争が爆発した。追い詰められた革マルは白色テロル・襲撃を全面化させた。解放派を軸として革マルに対する党派闘争—解体戦が攻勢的に闘われた。

こうした中で革マルは、75 年 6・24 指名テロル—大量虐殺襲撃をしかけ、石井同志を虐殺した。武装を理由として「反社会的集団」規定し、自らがブルジョア社会の防備兵であることを権力に売り込んだ。武装蜂起反対を党是とし、襲撃・虐殺の正当化とした。それに続く 2・11 反革命を凶行することをもって、革マルは反革命として転化した。そして革マルは、権力と一体となり、労働運動、学生運動、三里塚闘争、狭山一部落解放闘争、「障害者」解放闘争、在日中国人・在日朝鮮人の闘いに対する敵対を全面化してきた。

78 年旧動労（現 JR 総連）大会での「貨物輸送安定化宣言」の強行—三里塚闘争への絶縁宣

言をもって、国鉄当局への忠誠と三里塚闘争への敵対を全面化した。黒田・松崎を先頭に「冬の時代の労働運動」を掲げ、「労使共同宣言」で資本への忠誠を誓い、20万人首切り（2百人の自殺者＝虐殺）をもって強行された87年国鉄分割・民営化攻撃＝国労解体の先兵となった。

革マルと労働者階級＝被抑圧人民・被差別大衆の解放の闘いは非和解であり、革マルは打倒あるのみである。革マルは今日、資本の手先と

しての延命を争って対立を深め、JR 東労組革マルが相次いで離反し、「分析や方針上のズレや食い違い」（交通運輸労働者委員会）を止揚することができず、解体的危機を深めている。

革労協は、革マルの危機をとらえて離さず、同志中原虐殺報復の渾身の革命的テロルを叩き込む。植田・前原・柳葉・西條ら中枢、JR 総連革マル、虐殺下手人＝「特行」残存分子、学生革マルをせん滅し、反革命革マルを解体・絶滅する。

■革マルは対中国排外主義と反革命戦争突撃の先兵＝ 国粹主義者・「天皇の赤子」革マルを打倒しよう

革マルは、恐慌の深まりと各国階級支配の崩壊の危機の中で、米帝トランプの登場を「国家エゴイズムの相互衝突＝（秩序なき時代）の幕開け」として、戦争とファシズムをめぐる決戦的激動過程への突入に恐怖し、帝国主義による「秩序」＝支配の安定をこいねがっている。

アメリカにおける労働者・学生、黒人・ヒスパニック、女性などのトランプ打倒の実力決起、南朝鮮労働者人民の朴槿恵（パククネ）政権打倒・米日韓による朝鮮反革命戦争突撃に対決する闘い、パレスチナ人民＝中東労働者人民のイスラエル・シオニズムを先兵とした帝国主義による支配に対する実力・武装闘争をはじめとした全世界労働者人民の闘いを無視・抹殺し、「プロレタリア解放闘争の死滅」と描きだしている。革マルの本音は、今は「暗黒の21世紀」だから階級闘争は闘うな、ましてや革命闘争はもつてのほかだということだ。革マルの思惑を超えた闘いに対しては白色テロで破壊するという反革命宣言である。

革マル教祖・黒田は、最晩年に愛国短歌を作り散らして頓死した。革マルはその黒田の反革命思想＝宗教にすがりつくことで延命し、反革命活動を継続しようとしている。

中国の米帝に対抗した軍事力増強が戦争の危機の根源とし、日帝・米帝による対中国排外主

義＝反革命軍事的包囲を賛美している。そして、米日韓による朝鮮反革命戦争突撃に沈黙することで支持を表明している。

革マルは、アキヒトの「生前退位」問題に一切触れないことによって天皇制を支持し忠誠を誓っている。九条廃棄・戦争突撃と並ぶ安倍＝自民党による改憲攻撃の柱としての「天皇の元首化」にも言及しない。70年代に天皇制廃絶の闘いに「アナクロニズム」と罵倒し敵対し、「お腹の中の天皇制」（天皇制は血肉化している）と言って神秘化したように、「天皇の赤子」（天皇を親と見立て忠誠を誓う臣民のこと）ぶりを示している。

革マルは一水会や勝共連合などのファシストとも共闘・相互浸透し、ファシスト的転化を孕んで、日帝の戦争とファシズムの突撃の武装先兵として純化している。左翼を偽装し、白色テロルで戦闘的革命的闘いと革命的党派を破壊することを存在意義とする極悪の反革命である。天皇（制）攻撃、改憲攻撃＝戦争・ファシズムとの闘いにとって、革マルの解体・一掃は不可欠である。

革労協＝解放派は、反革命革マルを解体・絶滅する。共に革マル解体＝全戦線からの一掃をかちとろう。

2・19 革労協中央政治集会

正午 東京・渋谷区本町区民館（最寄り駅：都営大江戸線西新宿5丁目）

主催 革命的労働者協会総務委員会